

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。

すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。(黙示録 9:1)

この箇所、新しい訳の聖書ではもっと正確に訳されていて、「私は地上に“落とされた”一つの星を見た。」となっています。

これが正解です。

ギリシャ語では過去形で書かれていて、これは既に起こったことです。

第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。

すると、私は“既に天から地上に落とされた”一つの星を見た。(黙示録 9:1)

ヨハネは星が“落ちていく”のを見たのではなく、既に天から地上に“落とされた”星を見たのです。では、今は地上にいるこの星は誰でしょうか。

これは当然、別名を「明けの明星」と呼ばれるもの、ルシファーです。

ルシファーは油注がれた御使いの頭の一人でした。

イザヤ書 14 章にサタンについて書いてあります。

暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。(イザヤ書 14:12)

サタンがまだ天にいた時、彼の心は驕り高ぶり、

あなたは心の中で言った。

「私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、(イザヤ書 14:13)

彼は自らを神と等しくしようとし、天の御使いの中で自分が神になろうとしました。

それゆえ当然ながら彼は天から追放され、どこへ行ったかと言うと、この地上へやって来たのです。それで彼は“この世の神”と呼ばれています。

聖書を学んでいると分かると思いますが、神はアダムを創った時、実に具体的な仕事、重要な役目を与えました。

「アダムとエバ、生めよ。ふえよ。そして“地を支配せよ”」（創世記 1 章）

そのままの意味です。“地を支配せよ。”

これはアダムとエバが罪を犯す前の、全てが完璧で最高だった時のこと。

“地を支配する”とはどういう意味でしょうか。

それは「アダムとエバよ、天から落とされて地上に来た、この墮落した星を追い出すのだ。地を支配せよ。アダム、これがあなたの仕事だ。サタンがこの地球にもたらした暗闇を追い出すのだ。」

ここで思い出すのは、イエスご自身が 70 人の弟子たちを送り出した時に同じことを言った場面です。弟子たちは大興奮で帰って来て言いました。

さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。

「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」（ルカ 10:17）

イエスは言われた。

「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。」（ルカ 10:18）

どういうことでしょうか。

イエスは、「あなた方が追い出したから、サタンが天から追放されるのを見た。」と言ったのでしょうか。違うでしょう。

イエスは何世紀も前に起こったことを言ったのだと思います。

続けて、「だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」（ルカ 14:20）

喜ぶべきは「救われた」そのことであり、自分の働きやあなたのミニストリーやサタンを追い出すことではない。

「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。（ルカ 10:18）

神に用いられたと思っている全ての人に当てはまる、とても大事なメッセージです。

ミニストリーがあなたの情熱になってはいけません。

サタンの追い出しや癒しや色々な事がうまく運んだとしても、それらがとても危険な罠となり、罪への誘惑になり得るのです。

神が、あなたになさったことを喜びなさい。

神が、罪人であるあなたを火の地獄から救ったのです。

そのことを喜ぶべきで、自分が神に対して何をしたかではありません。

神はこれらの悪霊たちを閉じ込めました。

そして黙示録 1 章にははっきり書いてあるように、イエスが鍵を持っています。

また、死とハデスとのかぎを持っている。（黙示録 1:18）

その鍵を大患難の時に、一時的にサタンに与えます。
サタンが鍵を受け取る、私はこの事にとっても勇気づけられます。
なぜなら、神の許可なしには、サタンは何もできないということを証明しているからです。
それは、ヨブ記の1章にもはっきり書いてあります。
サタンは主の許可を得なければ何もできません。
主が鍵を持っておられます。

でも、なぜ主は、サタンに鍵を渡すようなことをするのかと言いたいでしょ。
それに関してはまた後ほど。

その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。(黙示録 9:1)

サタンは底知れぬ穴に行きたくないのです。
ルカ 8章の、ゲラサ人の地方で悪霊に憑かれていた男の話覚えていますか。
イエスは悪霊たちの名前を聞き、その名、レギオンに出て行けと命じました。

悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。(ルカ 8:31)

悪霊どもは、その豚に入ることを許してくださいと願った。(ルカ 8:32)

すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って湖に入り、おぼれ死んだ。(ルカ 8:33)

とにかく悪霊たちは底知れぬ穴に行きたくないのです。
とんでもない所だから。
そして今、サタンが一時的にその鍵を持っています。

その星が、底知れぬ穴を開くと、(黙示録 9:2)

地獄に繋がれている悪霊たちが、突然解き放たれます。

想像できますか。

世界中の刑務所が突然開け放たれて、直ちに全ての犯罪者が自由の身になる。
サタンが地獄の鍵を開けたら、続いて起こる事はものすごく恐ろしい地獄の沙汰。
これを更に深く学びたい人は、是非ヨエル書を読んで下さい。
ヨエル書の中で、イスラエル国家がイナゴによって滅ぼされる場面は、黙示録のこの箇所にとってもよく似ています。
ここで覚えておくべきことをよく聞いて下さい。
ヨエル書は、単にイナゴに関する歴史上の出来事を記しただけでなく、その後に起こることの預言書でもあります。
当時アッシリア人といえどもとても残忍で、生きたまま人の皮膚を剥ぎ、口に鉤をかけ、自分たちの領土まで何百キロもの距離を引きずって行きました。
アッシリア人はイナゴだけではなく、バッタでもあったのです。
ヨエル書 2章には、状況は更にひどくなる。
なぜなら、終わりの時にこれらのことが起こるからだとして書いてあります。

悪霊、終末に起こること、ヨエル書は、見事に黙示録 9 章と重なっています。

底知れぬ穴が開かれました。

穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽も空も、この穴の煙によって暗くなった。(黙示録 9:2)

その煙の中から、いなごが地上に出て来た。

彼らには、地のさそりの持つような力が与えられた。(黙示録 9:3)

サタンが穴を開くと、そこから煙とイナゴが出てきました。

それらは人間を非常に激しく苦しめていきます。

私たちの今の文化の中で起こっているのと同じように、これらの人々も死にたいと願いますが、しかしそれもできません。

黙示録 9 章を読み進めていくと、悪霊がどのように働いているのかが見えてきます。

ここで描写されている悪霊の姿は、私たちに多くのことを伝えています。

大患難時代にたくさんの悪霊が解き放たれますが、悪霊は今も働いているのです。

底知れぬ穴からのものとは違うかもしれませんが。

それでも悪霊は、コミュニティの子供たちやティーンエイジャー、高齢者、人々の中で働き、大きな歪みを引き起こして人生に失望させ、できることなら死にたいと願うようにさせています。

悪霊は長い髪で、魅惑的で惹きつけるような人間の顔をし、人道主義や知的なものとして人の内面に入り込む。

しかし、悪霊は獅子のような歯を持ち、大変しつこくて破壊的。

「ジョン、怖くなってきた。悪霊が今もこの世にいるなんて。それもものすごい数で。」

「しかも人間と知的に平和的に関係を持つことができ、性的な魅力もありながら、私たちに牙をむき、破壊し、めちゃくちゃにしまう!？」

「怖くて仕方がないです…私は、子供たちは、攻撃されるのでしょうか。」

「こんなことが自分や周りの人たちに起こるかもしれない？ どうすればいいのだろう。」

何が人間をそんなに苦しめるのでしょうか。

悪霊のさそりに刺された痛み。

今の世の中、何がこういうことをもたらしているのでしょうか。

続きは次回に。次回、黙示録 9 章の続きを詳しく見ていきます。

その時にこれらの答えを見つけましょう。

では、祈りましょう。

天のお父様、これらのことを読めば読むほど、私たちはあなたに感謝します。

あなたの御子が私たちに教えてくれました。

「これらすべてのことからのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈ってい

なさい。」(ルカ 21:36)

そしてお父様、感謝します。

私たちは自分の力ではなく、私たちの中にいるあなたの御子によって、御前に立つことができるのです。義の衣を着、イエスの血によって洗われました。

主よ、あなたの御言葉の約束に感謝します。

あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

(第1ヨハネ 4:4)

そして主よ、私たちが御言葉を学ぶことで、残される人たちに対して情熱を持って動かされるように、また、現在敵の攻撃によって弱っている人に対してもそうできるように祈ります。

信仰の盾、救いの兜、御霊の剣、そしてあなたが下さったイエス・キリストの守りを理解することができますように。

また主よ、どうかこの終わりの時、私たちが目を覚まし、注意して見ることができますように。

主よ、人々が救いを受ける決断ができるように、機会を捉え、先延ばしにすることがないように、教会として準備を整えることができるように力を下さい。

主よ、今週人々が光を見、真実を聞くように私たちをお使い下さい。

そして人々をあなたの家族に迎えて下さい。

イエス様、岩でいて下さりありがとうございます。

覆いとなって下さりありがとうございます。

あなたの御霊で、私たちを満たして下さいありがとうございます。

あなたをたたえ、感謝します。

イエスの御名によって。

アーメン。

つづく

私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。

しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。

それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。

この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。

子どもたちよ、偶像を警戒しなさい。(第1ヨハネ 5:19-21)